

1. 趣旨

青少年教育施設のボランティアの役割を理解し、必要な知識・技能を習得する。自然の中で活動する楽しさを味わい、仲間と協働した学びあいから、ボランティア活動に対する意欲を高め、社会に貢献できる人材を育成する。

2. 事業の概要

(1) 期日 令和7年6月14日(土)～15日(日)

(2) ①参加者 17人

②内訳 大学生17人

※22名申し込み、5名キャンセル。

(3) 日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
1日目 6/14 (土)				集合・開講式 受付	青少年教育施設の現状と運営	昼食 休憩	青少年教育(1.5h) ボランティア活動の意義(1.5h) ボランティア活動の技術(4h)				つどい 夕食・休憩				入浴・就寝
2日目 6/15 (日)	荷物整理 朝のつどい	朝食	身支度・準備	安全管理			昼食 休憩	施設におけるボランティア活動		閉会式					
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	

(4) 企画運営のポイント

- ・野外教育や環境教育に精通した講師をお招きし、事業の趣旨や当施設の特徴を踏まえた多様な自然体験活動を展開する。
- ・自然の家周辺における危険動植物への知識や技能、対処法を習得できるようなプログラムを組む。
ボランティアの実践的活動で身に付けておくべき知識・技能を習得する時間を増やす。
- ・先輩ボランティアから参加者に向けて直接プレゼンテーションを行う場を設け、ボランティア活動の実際やその魅力をよりリアルな温度感をもって発信する。
- ・参加者が毎回集合して指示待ちにならないように、しおりに必要事項を詳細に記載しておく。変更点については、ホワイトボードなどを活用して、インフォメーションを流すように工夫する。
- ・少ない職員で事業を運営できるように、準備や撤収作業の段取りや役割について、綿密に計画を立てる。

(5) 参加者の声

- ・ボランティアがどんなことを行うか分かりやすく説明して貰えたし、実際に体験してとても興味が出たので、積極的に参加したいと思います。
- ・ボランティアの魅力や意義が理解することが出来、今後より活動していきたいという気が増した。
- ・とても楽しい研修でした。これから予定が合う日に参加したいとおもいます。
- ・たくさん話したことがなかった大学生と知り合え、様々な話を聞くことができてすごく良い時間だった。
先輩ボランティアが年齢はあまり変わらないのにすごく考え方が大人でかっよかった刺激になった。

<活動の様子>

【ボランティア活動の技術①】



【ボランティア活動の技術②】



【青少年教育施設の役割】



【ボランティア活動の意義】



【安全管理（熱中症対策）】



【青少年教育施設におけるボランティア活動①】



【ボランティア活動の技術③】



【青少年教育施設におけるボランティア活動②】



【安全管理（危険予知・回避）】



【修了証授与式】



（６）成果と課題

①参加者アンケート結果 アンケート回収 17 名（回収率 100 %）

ボランティア養成研修全体を通して	満 足 : 14 名	82.3 %
	やや満足 : 3 名	17.6 %
	やや不満 : 0 名	0 %
	不満 : 0 名	0 %

②成果

- ・カリキュラム（講義・演習）の単位を完遂するにあたり、スケジュールが過密になりがちだが、参加者の疲労具合を見ながら、適宜講師と打ち合わせを行うことで、弾力的に事業運営することができ、臨機応変かつ柔軟に対応することができた。
- ・様々なプログラムやグループでの話し合いを通じ、参加者同士や先輩ボランティアとの親交を深めることができた。
- ・ボランティア活動で感じた苦労話や嬉しかったこと、やりがいについて先輩ボランティアが話したことで、参加者は、親近感や安心感が湧き、ボランティア活動への意欲を示した。
- ・開催時期については、例年より約 2～3 週間遅く設定した。各大学の新生説明会の訪問時期を鑑み、6 月上旬に開催することは適切である。

③課題

- ・定員 40 名で募集に対し、申し込みが 22 名と半数での実施となった。当日キャンセルも含め、申し込み後も 5 名が不参加となり、最終的に 17 名での事業実施となった。大学での説明会は、直接出向いて広報を行うなど戦略的な広報計画が必要である。
- ・参加者全員が新規ボランティア登録を行った。施設で実施する事業数も減っているため、実践活動の場をなるべく設定し、多くのボランティアが継続的にスキルアップできるような年間計画が必要である。